

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	経済学部	身分	教授
氏名	中條 誠一		
NAME	Seiichi Nakajo		

1. 研究課題

(和文) アジアの通貨統合における日中の戦略と役割

(英文) Japan and China's Role in Asian Monetary Integration

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

本研究は、アジアの通貨システムの改革によって、通貨統合が可能なのか、それとも人民元圏が誕生するのか、そこでの日本および中国の役割は何かを分析することである。具体的には、

- (1)、アジアにとって、通貨統合と中国の人民元圏化のいずれが望ましいか
- (2)、そのいずれが実現する可能性が高いか
- (3)、そこでの日本と中国の戦略と役割は何か

を明らかにすることである。

研究の結果、

- (1)、もし、アジアでこのまま通貨・金融協力が進展しなければ、通貨統合は難しく、人民元圏が形成される可能性が高いこと
- (2)、非対称的通貨システムである人民元圏の誕生は、中国の政策運営いかんによっては、必ずしもアジア全体のメリットにならないこと。とりわけ、日本にとっては、悪影響が大きいこと
- (3)、日本は、アジアの通貨・金融協力を積極的にリードし、かつ自らも円の国際化やFTAの推進などに努力をすべきこと

などを導出した。なお、中国の人民元の国際化戦略については、現地調査を実施し、分析を続けており、期間終了後に成果を公表する予定である。

(英文)

I investigated into the possibility of Asian monetary integration. As a result, I concluded that the Renminbi bloc will be established in Asia in the distant future, and in this case, Japan will suffer a loss, therefore Japan should lead actively monetary cooperation in Asia.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p>
<p>中條誠一 「円安進行は、アジア通貨システム改革の好機」『国際金融』、査読なし、1251号、2013年8月。</p>
<p>中條誠一 「政治的軋轢を乗り越えて、アジア通貨・金融協力の推進を」『世界経済評論』、査読なし、Vol.57 No.6、2013年11月。</p>
<p>中條誠一 「ユーロ危機に学ぶ「真の通貨統合」——アジアへの教訓」『商学論纂』、査読なし、第55巻第3号、2014年3月。</p>
<p>中條誠一 「アジア通貨システムの長期的展望——ドル、ユーロの不安定の中で」『金融構造研究』、査読なし、36号、2014年5月刊行予定。</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p>
<p>中條誠一 「アジア通貨システムの長期的展望——ドル、ユーロの不安定の中で」、横浜国立大学国際金融研究会、横浜国立大学、2013年8月1日。</p>
<p>中條誠一 「アジア通貨システムの長期的展望——ドル、ユーロの不安定の中で」、金融構造研究会、地方銀行協会、2013年9月27日。</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p>
<p>中條誠一 『人民元は覇権を握るか——アジア共通通貨の実現性』、中公新書、2013年。</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>